

「秋を運ぶ童子」

この絵は神奈川県伊勢原市の大山寺、時期は11月の後半です。

異常気象が常態化した近頃、東京近辺の平場で秋の紅葉を見るのは早くして11月下旬です。しかもその紅葉に美しさを平場で求めるのは少し困難で、やはり山しかありません。と言うことで、秋を求めてやって来たのが大山でした。

大山山頂の高さは1,250mほどですが、大山寺は500mほどの所にあります。大山は古くから山岳信仰の対象となっていて、寺は755年頃に開かれたと言います。その後幾多の変遷を経て江戸時代中期（18世紀後半）以降、『大山寺縁起絵巻』が民間に知られると「大山詣で」と言われる現象が起きたということです。

参詣に訪れた時、本堂に至る階段のモミジは紅葉の盛りの中でした。本堂を背に階段を見下ろすと、日の光が幾重にも重なるモミジの葉を通して階段はもろろん、階段の側に居並ぶ童子を明るく・赤く染めています。童子が色づく秋を籠の里へ運んで行くように感じ、大山詣での多くの先人達もこの景色を眺めていたのだらうと思いつつ、この絵を作成していました。

絵の中で少しアレンジしたことは2つ。1つは童子の背丈をおおむね揃えたことです。童子の各々の間隔は横から見ると相当広く背丈の高低差はさほど気になりませんが、このように一列に重なりと目立つため、絵の中で大きくなくなり小さくなりしりしりもっています。もう一つは階段の先の広がり伊勢原市の街を含む平野を単純に表現しています。現地に行かれた方これから行かれる方、どうかご理解ください。

今年の紅葉はどんなになるのでしょうか。楽しみます。



菊岡 保人



size : 530×455mm (F10)